

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・

地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

もくじ

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| □ 市民団体と企業をつなぐ、パネルコンテスト 1P | □ サービスラーニング活動報告会 3P |
| □ 強度行動障害 講師紹介 2P | □ 知多市職員研修を実施 3P |
| □ ベティ基金交流会開催報告 2P | □ インフォメーション 4P |

市民団体と企業をつなぐ、パネルコンテスト

10月25日、26日、当法人が受託管理している知多市民活動センターでセンターまつりが開催された。センターまつりは、当法人、行政、(N)市民大学ちた塾、総合ボランティアセンターの4者が連携し実施している。今年度は、より市民の声を反映できるよう、サポート制度を導入、市民活動団体や市民サポート12名とともに、市民活動をPRできるアイデアを出し合い、様々なイベントを企画した。

その中で、昨年に続き二年目となる「活動紹介パネルコンテスト」を実施。子どもの健全育成や環境保全などの活動に取り組む23団体がパネル製作に取り組んだ。出展団体からは、「自分達の活動をパネルにまとめてすることで、スタッフ全員で今後の活動を考える機会になった」「今までの活動をパネルに表現する作業が楽しかった。今後もいろいろな所でパネルを活用したい」との声が寄せられた。

コンテストに来場した市民は、活動に共感・応援したい団体に投票。観覧した市民からは「市内で活動している団体がこんなにあると思わなかった」「素晴らしい活動ばかりで、1つの団体に絞るのは難しい」という感想があり、2日間で633票の投票が集まった。サポーター企画による、まつり会場を巡るクイズラリーとコンテストの投票を組み合わせる仕掛けや、屋外ステージトラックでの、団体による活動紹介も行われ、多くの方がパネルを観覧し、市民活動を周知する機会となつた。まつり後には、団体のインスタグラムフォロワー数が増えるなど嬉しい成果報告も

あった。

今年のセンターまつりの趣旨に賛同し、協賛いただいた企業は28社あり、昨年度の8社から大幅に増加した。そのうち、パネルコンテストに賛同した11社からの協賛金



ステージで活動をPRする団体

は、投票率に応じて、市民活動団体に分配した。協賛金活用方法として、消耗品費や会場費などに充てられ、活動を通して市民に還元される。後日、サポーターを同行し、協賛企業へ御礼訪問に伺った。企業担当者より「事業者同士の関わりはあるが、市民とつながる貴重な機会をいただけて感謝している」とお声をいただいた。コンテストを通して、活動団体・企業が協働し、お互いが活動を広く発信する機会となった。

今後もこのつながりを大切にし、市民活動の魅力を発信し続けることで、地域に共感の輪が広がっていくことを期待したい。（山森）

新年のお慶びを申し上げます。昨年末に発表された今年の漢字「熊」からは、人と自然との共存を考えるきっかけになりました。危難を避け、自分も他人も揃って共存するため、私たちにできることとして『災害時外国人支援活動講座』では、災害や外国人支援に携わるNPOの協力の下、作成した動画を配信中です。右の二次元コードを読み取り、ご視聴ください。



一面の記事は予算削減が怪我の功名となって市内事業者様に協賛金を募った事例としてご一読ください。本年もよろしくお願い申し上げます。市野恵



パネルを観覧する市民

強度行動障害支援者養成研修 講師紹介

当法人主催「強度行動障害支援者養成研修」では、支援現場の実践者を講師として招聘しています。そんな講師陣の横顔をリレー形式でご紹介します。今回は、(N)ゆめじろう理事長の出口晋さんです。（山森）

【団体の概要、仕事内容は？】

知多半島南部にある武豊町を中心に行動援護、生活介護、就労継続支援B型、共同生活援助の他、基幹相談支援センターなど障害の重い人でも地域で生活ができるよう事業を展開しています。

日ごろは基幹相談支援センターの相談支援専門員として、相談業務や地域自立支援協議会の運営業務を行っています。月に2日ほど、行動援護ヘルパーとして至福の時間をいただいております。



【現場支援で大切にしていることは？】

自分たちの関わっている時間だけでなく、家族や自分たち以外の人が支えている時間に思いをはせ、“ご本人だけでなくご家族がどうしたら地域でその人らしい暮らしを続けていくことができるか”と、想像力を働かせながら支援することを大切にしています。

【受講生に持ち帰ってもらいたいことは？】

行動障害の状態にある方も、他の誰とも取り換えることのできない大切な自己実現をしている唯一無二の存在です。共に地域で生きる仲間として、自分事としてかかわり続けていくことの大切さを学んでいただければ幸いです。

【団体からのお知らせやメッセージ】

行動障害の状態にある方と何かのご縁で関わることになった仲間としてつながりながら共に成長していきましょう。

ゆめじろうでは、①基幹相談支援センター相談員②休日の行動援護従事者（学びを兼ねた副業も大歓迎！）を募集中です。お気軽にお問い合わせください。

(N)ゆめじろう（担当：出口）
TEL (0569) 72-2963



ゆめじろうHP

■ベティ基金交流会開催

本法人が事務局を務めるベティ基金は、2014年12月、(株)RandTカンパニー出資により設立され、制度によらない障害者福祉活動を行うボランティア団体・NPO法人を応援し、地域の障害者支援に役立てて、地域交流につながる事を目的としている。



参加者との集合写真

11月29日ベティさんの家太田川にて、今年度助成金を受領した7団体11人が参加し、交流会を開催。会の冒頭で、(株) RandTカンパニーの中祐樹さんは、「これを機に他団体とつながりを作り、連携することで活動を発展させて欲しい」と挨拶した。

団体交流の時間では、活動を進めるうえで感じている課題を参加者同士で出し合い、それについて意見交換を行った。

団体の課題	アイデア
団体を運営する人材の不足	楽しそうなスタッフの様子をSNSで発信し、人材募集を行う
スタッフ研修の時間を確保できない	有料動画のサブスク研修の活用
平日における託児ボランティアの不足	不登校の中高生が“できることから関わる”ボランティアとして参加

参加者からは、「情報過多で活動を見つけることもあるが、顔が見える交流会に参加することで、多くの取り組みを知ることができた」「同じ地域で活動する団体と知り合うことができた。今後コラボできたら面白そう」などの声があった。障がい支援活動を行う団体が多く集まつたことで、共通する課題も多く、お互いに活動を励まし合いながら、アイデアを持ち帰る機会になった。

（山森）

ベティ基金 募集中

助成対象: 知多半島で活動し、障がい児者支援を行う親の会やボランティア団体、NPO等



ベティ基金HP

助成時期: 2026年5月

選考方法: 4月の審査委員会にて決定

募集期間: 1月1日(木)～3月31日(火)

〈HP〉 <https://sapochita.wixsite.com/betty>

※詳細はベティ基金のHPを参照。

申請書に関する相談はサポートちたへ(要予約)

■サービスラーニング活動報告会

10月18日、日本福祉大学美浜キャンパスにて、学生による、サービスラーニング（以下、SL）の夏季活動報告が行われた。受け入れを行った団体が見守る中、活動の中で得た学びを報告した。（一部報告抜粋）

〈一般社団法人みずなぎ（生活介護ばすてる）〉

企画：夏祭りのレクリエーションを実施。

様々な特性の利用者がいるため、アセスメントの必要性を学んだ。職員の方へたくさん質問し、楽しんでもらえる内容を検討した。

〈NPO法人PakaPaka〉

企画：中学生向けのレクリエーションを実施。

子どもの特性を知る為には、専門性が必要なこと、職員の方との連携を学んだ。

〈一般社団法人BumpyCompany〉

企画：子どもの自立課題の作品作り

ユースワークの視点から、子どもを尊重し、助けてといえる環境づくりが必要だと学んだ。

〈NPO法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ〉

企画：屋外での水遊び企画

与えられた条件の中で考え、行動することが、学びにつながり、活動先との対等な話し合いで、チームに結束力が生まれた。

〈NPO法人りんりん〉

企画：自己紹介ゲーム

やってあげるが支援ではない。利用者の力量を見極めるのも支援者として必要。

教員からのまとめとして、両角先生は、「大学でのSLは、授業という枠組みの中では主体的に学べない学生もいるが、何かに越境していく経験には無駄なことは一つもない。越境することで、他者と関わるきっかけや経験になる」と話し、菊池先生は「学生の活動が地域とのつながりや新しいアイデアが生まれるきっかけになると良い。学生にとって成功体験のきっかけになって欲しい」と締めくくられた。

今年度は21団体が学生を受け入れ、学生からの報告を通して、団体同士が互いの活動を知る貴重な機会となった。（山森）



活動報告を行う学生の様子

【告知】 サービスラーニング交流会

講義：「市民性を筋トレしよう！」

～デモクラシーフィットネスから学ぶSLのこれからの実践～

講師：藤田さんえ氏 ((N) DemocracyfestivalJapan)

日時：2026年3月11日(水)15:00

参加対象：サービスラーニング学生受入団体

※会場等詳細は後日お知らせします。



南柏谷ハウスでの研修の様子

■知多市職員研修を実施

11月21日、知多市では入庁2年目の職員12人を対象に「市民協働研修」を実施した。市内で活動する市民団体を訪問し、NPOの視点を学ぶとともに「行政職員として何ができるか」を考えることを目的としている。訪問先は、(N) 知多地域権利擁護支援センター（以下、CKC）、学校協働本部、南柏谷ハウス、(認N) ゆいの会の4団体。

参加者への事前アンケートでは「NPOの資金はどこから調達しているのか？」という質問が寄せられていた。南柏谷ハウスでは、住民ボランティアによる喫茶や貸会議室の運営を通じて、常設の居場所を維持していることが紹介された。

CKCの今井友乃理事長は、「お金を支払える人からは利用料をいただく。守るのは財産ではなく、その人の“尊厳”である」と語り、センター設立にあたっては行政や社会福祉協議会と丁寧な話し合いを重ね、一人で抱え込まず多くの人に相談することの大切であると話した。

ゆいの会は、地域に根差した活動を続ける中で資金に余裕はなかったものの、2012年に個人からの遺贈を受けて新たな建屋を整備できた。また、知多市委託事業として2021年度から始まった住民同士が有償で日常生活の困りごとを助け合う仕組み「ちょこっとサポート」についても説明があり、参加者からは「委託事業を通じて行政との関わりが活動の幅を広げる機会となっていると知った」との声が聞かれた。

研修後の振り返りでは、「地域学校協働本部の理念『人は誰かの役に立ちたい』という思いは、職員としても忘れずにいたい」「庁内での連携や職員同士の関係づくりが、より良い市民相談の対応につながると感じた」といった感想があった。（安藤）

サポちた インフォメーション

会員のみなさまから集まる情報を掲載しています。お気軽に情報をお寄せください。

■講演会「本棚オーナーが本屋になるまで」

小学校の先生が本屋さんになった！一箱本棚のオーナーになった！本でご縁が繋がるブタコヤブックス店主さんのお話。

〈講師〉船張真太郎さん

〈日時〉2026年1月25日(日) 10:00～11:30

〈場所〉地域の縁側 グリーン・ラゾ
東浦町緒川屋敷式区61-1
〈参加費〉500円(ドリンク、お菓子付)
〈定員〉40名(先着順)
〈申込・問合〉(認N)絆 TEL(0562)83-7563
担当/山崎 右記コードよりお申込みください。



■「未来へのふくし航路(特別回)」開催

日本福祉大学70周年事業の一環としてシンポジウムを実施。少子高齢化、孤立、貧困、福祉人材の不足など…地域社会をめぐる課題が複雑化する今、“Well-being for All をどう実現していくか-その戦略を探る-”をテーマに、現場で挑戦を続ける実践者・研究者が知見を持ち寄り、これからの戦略と一緒に考える。

〈日時〉2026年1月12日(月・祝) 13:00～16:00

〈場所〉東京交通会館 12階カトレアサロンB

〈開催方法〉ハイブリッド(対面・オンライン)

〈シンポジスト〉

・湯浅誠((認N)全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長)

・奥田知志((認N)抱樸 理事長)

・戸枝陽基((社福)むそう 理事長)

・野尻紀恵(日本福祉大学 社会福祉学部 教授)

・原田正樹(日本福祉大学 学長)

〈参加費〉3,000円(税込)

〈申込締切〉1月11日(日)

〈申込・問合〉日本福祉大学 東京サテライト

TEL(03)5220-2825

✉ recurrent@ml.n-fukushi.ac.jp

〈HP〉https://www.n-fukushi.ac.jp/recurrent/academy/scs_tokyo/special/

※詳細はHPを参照。



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市民活動センター1階
Tel 0562-33-1631 Fax 0562-33-1743
Email spchita@ams.odn.ne.jp
HP <https://sunnyday-cfsc.ssl-lollipop.jp/>

 特定非営利活動法人
地域福祉サポートちた



■高校生介拓AWARD2026<予告>

高校生が介護福祉の現場で働きながら学ぶ「介拓奨学生プログラム」。2025年度の参加者がその成果を発表する。

〈日時〉2026年3月15日(日) 13:30～16:00

〈会場〉日本福祉大学東海キャンパス

〈対象〉関心のある方であればどなたでも。参加費無料。

〈主催〉(公財)あいちコミュニティ財団

〈共催〉介拓PJ実行委員会

〈HP〉<https://kaitaku.org/>

※詳細はHPを参照。



介拓HP

■厚労省ヘルパー魅力発信サイト開設

厚生労働省は、ホームヘルパーの魅力を発信する特設ウェブサイトを11月に開設。若者や介護業界で働きたい人に向け、仕事のやりがいをアピールすることが目的。サイトには、採用活動で活用できるポスターや漫画、動画などを今後追加予定。また、ヘルパー就職を検討する人向けに、職業情報提供サイトへのリンクも掲載。

〈HP〉https://www.mhlw.go.jp/home_helper/



ヘルパー魅力
発信サイト

キリン地域のちから応援事業

「シニア×「食」の居場所づくりプロジェクト」報告

10月の「コーヒーの淹れ方講座」と11月の「かんたんお料理教室」に、のべ20人が参加。

お料理教室の講師(Ada-coda登録シェフ)が参加者同士のつなぎ役となり、講座で知り合った有志6人が、講師を中心に「ワンディシェフ体験」を実施。また、参加者のうち2人が講師が関わる子ども食堂でボランティアを始めた。6人のうち唯一の男性参加者も、子ども食堂を度々訪れているという。

食を通じた居場所では、配膳や盛付、掃除など調理以外でも活躍できる役割があり、「誰かの役に立てる」ことを実感できる。事業後も「Ada-codaを手伝いたい」との声が参加者から寄せられた。

(安藤)

手づくりカフェ Ada-coda シェフ募集

日替わりで市民が自分の思い通りのランチをつくり、お客様に提供します。食品衛生責任者が常駐するので、初めての人でも安心して料理に専念することができる仕組みです。詳細はサポートちたまでお問い合わせください。 担当/落水